

TruPhase の活用(18)
—音源の位相確認(18)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(17)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

BMG BVCD-34004

J.S.Bach ヴィオラ・ダ・ガンバのための組曲ニ短調他
ヒレ・パール

PFILIPS PHCP-1821

W.F.Bach ヴィオラとチェンバロのためのソナタハ短調他
今井信子(ヴィオラ)
ローランド・ポンティネン(チェンバロ)

ARCHIEV POCA-3042

J.S.Bach リュート組曲ホ短調他
ナルシソ・イエペス(リュート)

EDITIO CLLASICA 77044-2-RG

J.S.Bach ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロのためのソナタ集
ヴィーラント・クイケン(ヴィオラ・ダ・ガンバ)
グスタフ・レオンハルト(チェンバロ)

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のヴォリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのヴォリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

ヒレ・パール盤は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、ヴィオラ・ダ・ガンバの音像が過大になり、位相反転させないと定位がしっかりして音の焦点が合い、ヴィオラ・ダ・ガンバの擦弦音やボウイングの様がリアルになります。

今井信子&ポンティネン盤は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、ヴィオラとチェンバロの音像が過大になり、位相反転させないと定位がしっかりして音の焦点が合い、ヴィオラとチェンバロの細かい演奏技量が分かりやすくなります。

ナルシソ・イエペス盤は、位相反転させますと、音像が中央に寄り、リュートの撥弦音がシャープになります。位相反転させないと音像が過大でぼやけます。

ヴィーラント・クイケン&グスタフ・レオンハルト盤は、位相反転させますと、ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロの定位が明瞭になり、音像がシャープになります。位相反転させないと音像が過大でぼやけます。

4. まとめ

ヒレ・パール盤と今井信子&ポンティネン盤は正相であり、ナルシソ・イエペス盤とヴィーラント・クイケン&グスタフ・レオンハルト盤は逆相のようです。

以上